

『建設業という道を選んで』

宮坂建設工業株式会社
栗城 岳人

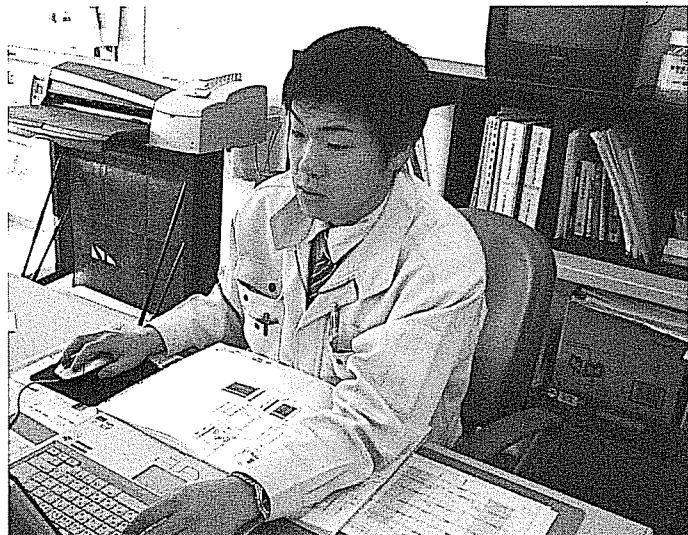
私は、今の会社に入りちょうど1年目となります。以前は、公務員として約3年間、建築行政に携わっていました。

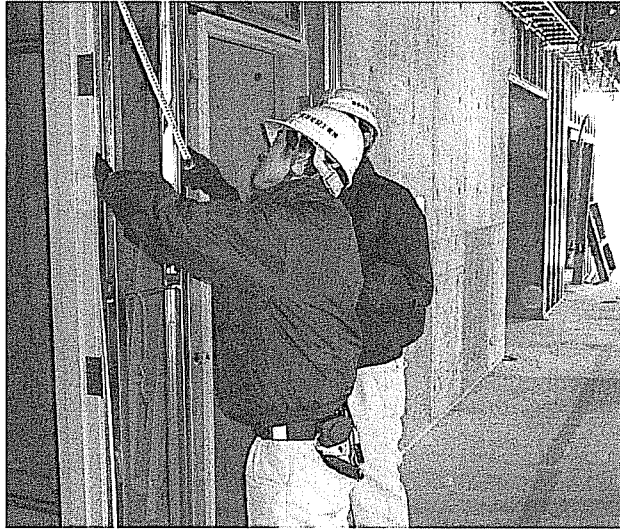
役場では、公営住宅や消防庁舎等の建設工事の監督業務・確認申請の受付業務等を行っていました。監督員として建設工事に携わる中で、段々と「自分はこのままでいいのか」と思うようになりました。それは、監督という立場ながら、実際は、よくわからないまま工事が進み建物が完成していく、このまま働いていても、技術者として成長できないと強く感じていたからです。そういった気持ちの中で転職を決意し監督員という仕事から、実際に建物をつくる側の仕事をやってみようと思い、今の会社に機会を頂いた訳です。

入社し現場に配属されるまでは、希望に満ち溢れていて、これからの仕事に対する不安等は、ほとんどありませんでした。ですが、実際に現場に出た私を待っていたのは、そんな気持ちを忘れさせる程の忙しい毎日でした。日々、時間に追われ、朝早くから、夜遅くまでの仕事に、疲れがたまり体調を崩した事もありました。ただ、気持ちの面では建物が、段々と出来ていく様子を見れる事が、おもしろくて、とても充実していました。

1年が経ち、今、この仕事に対してとても感じることは、時間の使い方が、とても重要だということです。私達の仕事は、建主様の都合・職人さんの都合・現場によっては、作業時間に制限があったりと何かと時間に追われる事が多く、それに加えての書類等の事務仕事。やっても、やっても消化できずに、1日のメドが見えにくい。考慮不足で仕事を行うと効率よく現場の段取りをする事ができなくなってしまいます。

また、時間の使い方と共に、私達のような新米が、この仕事をやっていく中で重要な事として挙げられるのが、仕事に取り組む気持ちだと思います。常に目標を持ち続け、将来の自分は、こうなりたいという志を、持ち仕事をしていかないと、仕事の取り組み方も全く変わってしまいますし、





言われた事だけしかできない人間になってしまいます。

この仕事は、一人前になるまで、かなりの時間を要すると思います。どんな仕事でも同じだと、は思いますが、上司に言われた事をただやるだけでは、自分の力には、決してなりませんし、その意味や、やり方を確実に自分のものにしていかなければなりません。

現場での仕事は、多岐にわたり建設業そのものが、他の仕事と比較すると厳しい仕事かもしれません。確かに、仕事は楽しい事だけではなく、失敗して自信を失い、また奮起しての繰り返しです。ただ努力して建物を完成させた時の喜びは、何物にも変えがたく、他で得る事の出来ないやりがいも沢山あると思います。

役場をやめ、建設業を選んだ私の挑戦は、まだ始まったばかりですが、先に述べた通り自分の可能性を信じ、技術者として成長できるよう、これからも頑張りたいと思います。